

渡良瀬遊水地の未来に向けて



茨城県 古河市、栃木県 栃木市・小山市・野木町、
群馬県 板倉町、埼玉県 加須市
わたらせ未来基金

手づくり郷土賞

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

渡良瀬遊水地は、栃木・群馬・埼玉・茨城の4県と接する位置にあり、渡良瀬川・利根川流域の水害や濁水から地域住民の安全と安心を守るための治水・利水施設として、その役割を果たしています。明治時代は農村地帯だった土地で、足尾銅山問題や治水計画のため土地の強制収用の歴史がありました。しかし長年の時を経て、地域住民の皆さんはじめ多くの方のご協力の下、調節池として整備され、

今では日本の原風景であるヨシ原を中心とした低層湿原の再生により様々な生き物の宝庫となり、関係する人々の努力により2012年にはラムサール条約登録地となりました。

また、広大な3次元空間の魅力あるフィールドとして、熱気球、トライアスロンや自転車などのスポーツをはじめ、自然観察や憩いの場として、年間約120万人が訪れています。



日本有数のヨシ原



水と緑にあふれた渡良瀬遊水地



ラムサール条約登録認定証授与
(ルーマニア・ブカレストにて)

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「渡良瀬遊水地を将来に渡って自然の宝庫として残すためには市民も積極的に係わる必要がある」との初代代表の理念のもと、「わたらせ未来プロジェクト」を策定し、賛同する市民で2001年に設立しました。渡良瀬湿地帯（遊水地）の自然を再生し、大型野鳥の生息・繁殖により自然と人間の共存をめざし、湿地環境保全として低層湿原に生育・生息する絶滅危惧種の保護や、野草や野鳥の観察など自然学習会、湿地のグリーンウェイブ活動、川でつなぐ

る上流足尾山地の緑化のための植樹と保育など多くのイベントを実施しております。

また、日本有数のヨシ原の保全のため、外来種除去、体験ヨシ刈り、土壌攪乱による湿地保全・再生、腐葉土づくりなどでヨシを有効利用したり、学校ピオトープによる環境教育を行う事により生物多様性への理解や自然環境保護を次世代につなげるよう、力を注いでいます。



地域学校と協したヨシ腐葉土づくり



湿地のグリーンウェイブ活動



学校ピオトープを設置し環境教育

3 活動の成果や波及効果等

過去16年にわたる活動で、湿地再生保全活動では市民のみならず、学校や企業、行政にも理解が広がり、渡良瀬遊水地第二調節池の環境学習フィールド3を中心に年5回の活動で毎回500～1000人の参加者にご協力いただいております。また、足尾との広域連携により、足尾のどんぐりを遊水地で苗にし、足尾に植樹する循環型緑化にも取り組み、過去の歴史を乗り越えた事業に発展しています。

近年ではコウノトリの飛来も確認されるなど着実に成果が現れており、渡良瀬遊水地を中心にした広域的な自然再生ネットワークが広がっています。



毎回多くの市民が参加する外来種除去等湿地再生保全活動



コウノトリの飛来



攪乱作業による湿地環境再生



コウノトリの飛来

所在地

茨城県 古河市、栃木県 栃木市・小山市・野木町、
群馬県 板倉町、埼玉県 加須市

活動主体及び連絡先

わたらせ未来基金 (0280-31-8913 内田)
<http://watarase-mirai.jimdo.com/>

対象となる社会資本

渡良瀬遊水地
※管理者：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所



喜びの声



受賞者

わたらせ未来基金
代表 青木 章彦
事務局 内田 孝男

コメント

受賞は、これまでの手づくりの証となりました。価値ある自然環境をさらに未来に向けて、コウノトリも棲める境界無い地域づくりとエコミュージアムを目指し、活動を強力に進めていきます。

活動内容

ヨシ原保全、足尾山地緑化、湿地の保全・再生、生物多様性の場づくり、環境学習・教育、ゴミ拾い活動 など

活動の経緯

平成13年 会の設立。わたらせ未来プロジェクト活動開始、ヨシ刈り、足尾植樹、学校ピオトープ等各種イベント開始
平成23年 湿地保全再生プロジェクト
平成24年 ラムサール条約登録証授与
平成26年 小山市との協働イベント開始参加者1000人を記録

手づくり郷土賞

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編